

**Asile Flottant 2.0**  
**セーヌ川における物流・文化・防災を担う浮かぶ都市拠点**  
**Asile Flottant 2.0**

**A Floating Urban Hub for Logistics, Culture, and Resilience on the Seine**

佐藤 信治<sup>1</sup>, ○小澤 知華子<sup>2</sup>  
 Shinji Sato<sup>1</sup>, \*Chikako Ozawa<sup>2</sup>

The project reimagines the historic Asile Flottant, once created by Le Corbusier as a shelter, transforming it into a contemporary floating infrastructure on the Seine in central Paris. No longer limited to preservation, it is reborn as a logistics depot and distribution hub, where goods arrive by boat, are sorted, and either delivered or collected directly by citizens. Above this, public spaces such as galleries, cafés, and workshops offer cultural encounters, while the structure can adapt in times of crisis to provide housing, supplies, and safe refuge.

By combining logistics, culture, and resilience, it addresses 21st-century urban challenges.

1. 初めに

アジール・フロタタンは1929年にル・コルビュジェと前川國男によって設計され、難民やホームレスのための「浮かぶ避難所」として誕生し、当時のパリにおいてホームレスや失業者を庇護する社会的役割を担っていた。しかし、21世紀の今日、世界都市パリはかつてとは異なる課題に直面している。

気候変動による洪水や熱波、移民・住宅問題、パンデミックによる社会の分断、さらにトラック依存による都市物流の停滞と環境負荷。これらは都市生活を根本から揺るがす課題である。

本計画は、アジール・フロタタンを単なる保存対象として位置づけるのではなく、「浮かぶ避難所」から「物流と公共空間を担う都市インフラ」へと再解釈する。



Figure1. Asile Flottant in 1930 [1]



Figure2. Asile Flottant in 2020 [1]

2. 計画背景

2-1 歴史性

アジール・フロタタンは元は石炭輸送線であり、後に避難船として改修され128床の寝床都食堂・衛生設備を備えた。しかしその役割は現在では失われている。現在、文化財として守られてはいるものの、「どう現代に生かすか」活用の方向性は模索段階になる。

2-2 現代都市の課題

物流問題：トラック依存による渋滞とCO2排出。再配達増加による効率低下

**France Courier, Express, and Parcel (CEP) Market**

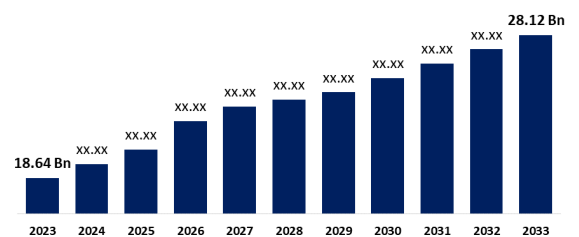


Figure3. Demand for CEP services in France [2]

環境・防災：セーヌ川の氾濫リスクが高まり、年に新たな避難・物資拠点が求められる。

文化的課題：文化財としての保存は進む一方、現代都市への応答性が弱い。

これらを踏まえると、アジール・フロタタンは「過去の遺産」として保存されるだけでは不十分であることがわかる。むしろ、歴史的な価値を尊重しながらも、現代の都市課題に応える新しい役割を

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.  
 2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.

与える必要がある。

具体的には、セーヌ川という都市の動脈を活かし、物流の拠点として再編することで、トラック依存を軽減し、都市配送を効率化する。

洪水や災害時には、浮かぶ避難・物資拠点として機能する。平時には、文化・教育・観光の拠点として市民に開かれる。つまり、「物流」「防災」「文化」を同時に担う21世紀型の浮かぶ都市インフラへと進化させることこそが、現代におけるアジュール・フロタタン再生の意義である。

### 3. 計画敷地

セーヌ川沿い(Quai d'Austerlitz 周辺)

本計画の敷地は、実際に係留されていたパリ中心部のセーヌ川沿い、Quai d'Austerlitz 周辺である。セーヌ川はパリにおいて歴史的景観を形成する都市の象徴であると同時に、都市物流の潜在的な動脈でもある。本計画では、この川の性質を最大限に活用し、物流・市民生活・防災を重ね合わせた水上建築を提案する。



Figure4. Layout of the Asile Flottant [1]

### 4. 配置計画

配置は、セーヌ川に浮かぶ複数のユニットで構成され、それぞれが都市機能に応じた役割を持つ。中心となるユニットは、かつてのアジュール・フロタタンの係留地点に設けられ、都市物流と市民生活をつなぐ拠点として位置づけられる。ここでは小型船によって荷物が搬入され、船内で仕分けされた後、EVカーゴや自転車便により周辺地区へ配送される。また船内には住民が直接荷物を受け取れるピックアップステーションを設け、再配達を削減し都市物流の効率化を図る。

### 5. 対象者

市民：日常の生活拠点として荷物の受け取り、公共空間の利用、文化・交流の場を享受。

観光客：コルビジェの手がけたアジュール・フロタタンの見学も兼ねながら、セーヌ川沿いの新しい観光スポットとして利用。

物流事業者：都市配送の効率化、再配達削減によるコスト低減を得る。

住宅困難者/避難者：緊急時に一時的な住居・避難施設として利用可能。

行政：環境政策、防災拠点設備の一環として活用。

### 6. 想定稼働日

平常時：年間通して300日程度稼働。物流の受け取り拠点としてほぼ毎日稼働。

公共空間：週末や観光シーズンには文化イベントを開催し、市民と観光客の利用を拡大。

災害時：緊急時には即時稼働し、72時間以内に生活・救援拠点として転換可能。

### 7. 主要機能

物流機能：小型船から荷物を受け入れ、EVカーゴ・自転車便で都市配送。市民が直接荷物を受け取れるピックアップステーションを併設。

文化機能：展示・ギャラリー・カフェ・ワークショップ。物流の“見える化”による都市教育の場。

住宅・避難機能：災害時に200~300人を収容可能な一時住居。生活必需品・救援物資のストックヤード。

環境機能：太陽光発電、水質浄化装置による持続可能性の実証。

防災機能：洪水・災害時の浮かぶ避難拠点、物資輸送の節点。

### 8. 参考文献

[1] AYILE FLOTTANT 「アジュール・フロタタン復活プロジェクト」

<https://www.asileflottant.net/location>

[2] SPHERICAL INSIGHTS 「フランスの宅急便・エクスプレス・CEP」

<https://www.sphericalinsights.com/jp/reports/france-courier-express-and-parcel-cep-market>